

# 古きを訪ねて新ひきを知る 6

文化財保護課 0224-6097

## 古尾谷八幡神社

「八幡様」と地元の人に親しみを込めて呼ばれる古尾谷八幡神社。かつての古尾谷庄十三か村の総鎮守です。真っ赤な鳥居をくぐると、正面に大きな社が姿を現します。これは江戸時代中ごろに建てられた権現造の社殿。近づいてみるとその大きさに圧倒されます。幕府や藩の手を借りず、地元の人々の力だけで建てられた神社建築としては、ほかに類を見ない大きさです。一番手前が神霊を礼拝する拜殿で、その奥に供物を奉る幣殿、そして本殿と続きます。



現社殿の真っ赤な壁面が目を引きま

現社殿の西隣にひっそりと建つのが、戦国時代に岩付太田氏の家臣が建てた旧社殿。これは四百五十年を経て現存する、市内最古の建物です。簡素でいながら、りんとした気品を感じさせるその姿は、古谷地区の歴史を物語っています。9月19日(日)には、同神社周辺で、地域の男の子が色鮮やかなホロを背負って練り歩く、県指定無形民俗文化財・ほろ祭が行われます。

## 川越の米

市内東部・北部地区を中心に栽培されている川越の米。主な品種には、ほどよい粘りと甘みがある「コシヒカリ」と、さっぱりとした味が特徴の「彩のかがやき」があります。川越の米は、「安全でおいしい地場産の物を」という思いから学校給



食にも使われ、子供たちの元気の源となっています。

「良い米を収穫するには、定期的な草刈りと、稲の成長に合わせた水管理が大切です。収穫間近には、鳥による食害や台風などに苦慮。自然と闘いながら、ようやく秋に米を収穫できます」と語る栽培農家の島崎嘉通さん(山田・50歳)。労力をかけて収穫した川越の米は、直売所などで買うことができます。

米は、消化・吸収率の高い良質なでんぷんのほか、タンパク質、脂質、ミネラルなどが豊富に含まれ、まさに栄養の宝庫。これからおいしい新米の季節がやってきます。おにぎり、納豆・玉子かけご飯……。頭と身体を使う「読書の秋」「スポーツの秋」に、川越の米でパワーを補給しましょう。



たわわに実った稲穂

編集後記

## どんぶり

小学生対象の「浦和レッズズハートフルクリニックジュニアサッカー教室」を取材しました。声に合わせてボールを奪い合ったり、すばやく相手に渡したり……。ちよつとした遊び心が子供たち四十三人の緊張をほぐしていきます。最後は、青・赤・白のチームに分かれたミニゲーム。ゴールだけでなく、応援や良いプレーにも得点が入り、四点ごとにチーム名が変わるルールです。例えば青は「鼻水↓進め↓日本代表」に進化します。変な名前に大笑いしながらも、「代表入り」を目指し、ボールを懸命に追いかける子供たち。太陽のように輝く目が、印象的でした。

小江戸川越観光 キャッチフレーズ

とき

薫るまち

川越